

第3期生駒市食育推進計画 (資料編)

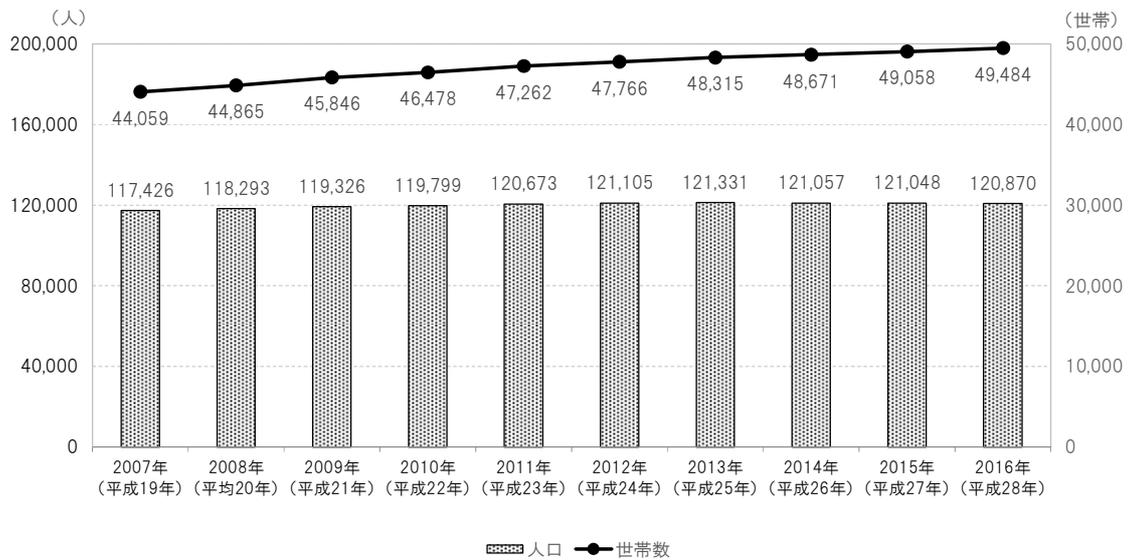
1 生駒市の食をめぐる現状

(1)人口

①人口・世帯数の推移

本市の2016年（平成28年）の人口は120,870人であり、減少傾向である一方、世帯数は49,484世帯であり、過去10年間で最も多くなっています。

図表1：人口および世帯数の推移

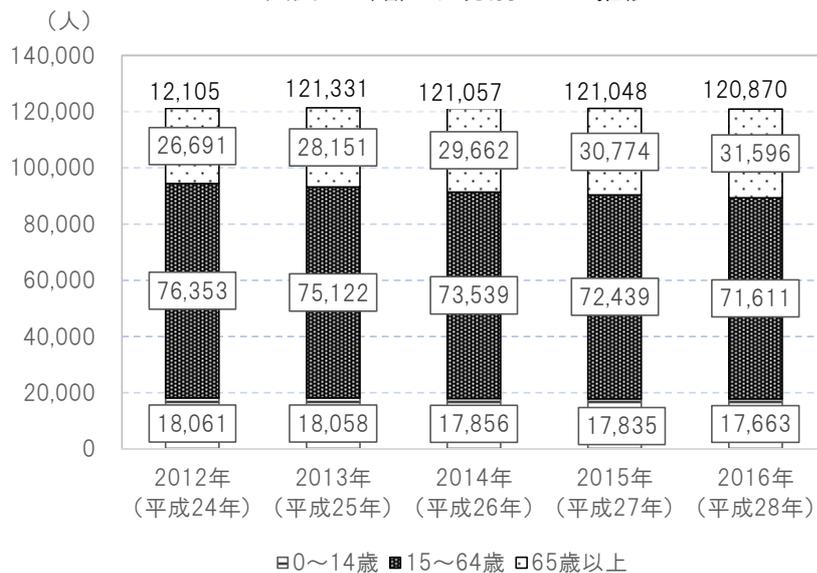


※住民基本台帳より作成（各年10月1日現在の数値）

②年齢3区分別人口の推移

年齢別人口は、0～14歳は横ばい、15～64歳は減少傾向です。一方、65歳以上は増加しており、今後さらに高齢化が進むと予想されます。

図表2：年齢3区分別人口の推移



※住民基本台帳より作成（各年10月1日現在の数値）

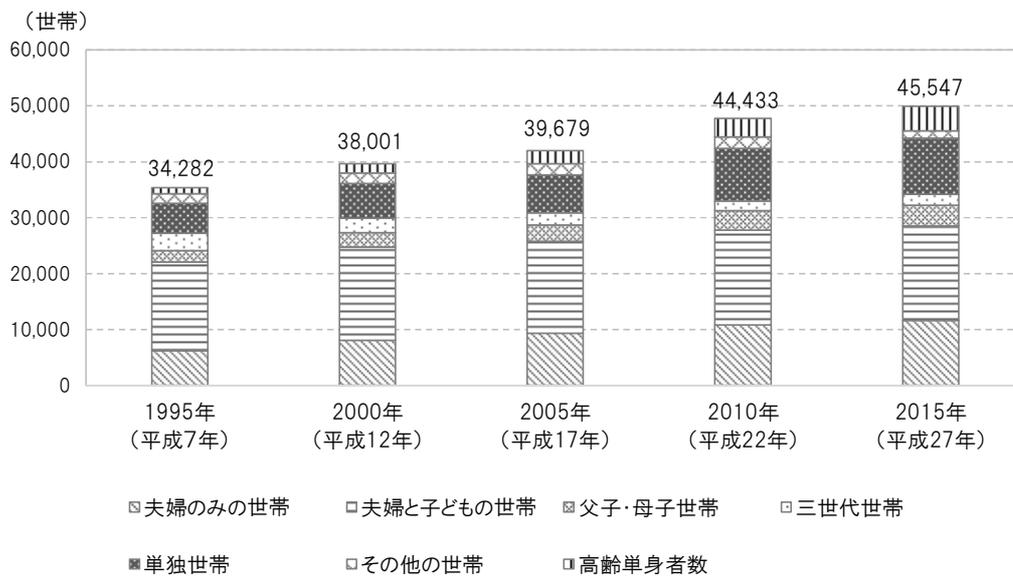
③家族類型別の世帯数

家族類型別の世帯数は、夫婦のみの家庭、単独世帯が増加しています。

図表3：家族類型別世帯数の推移

単位：世帯

年次	一般世帯 総数	核家族世帯				三世帯世帯	単独世帯		その他の世帯
		総数	夫婦のみの 世帯	夫婦と子ど もの世帯	父子・母子 世帯		高齢単身 者数		
1995年 (平成7年)	34,282	24,130	6,225	15,810	2,095	3,043	5,414	1,090	1,695
2000年 (平成12年)	38,001	27,308	8,121	16,632	2,555	2,618	6,191	1,675	1,884
2005年 (平成17年)	39,679	28,688	9,349	16,398	2,941	2,212	6,719	2,313	2,060
2010年 (平成22年)	44,433	31,269	10,845	16,929	3,495	1,677	9,431	3,306	2,056
2015年 (平成27年)	45,547	32,226	11,609	16,936	3,681	1,926	10,098	4,380	1,297



※国勢調査より作成

(2)健康の状況

①健康寿命

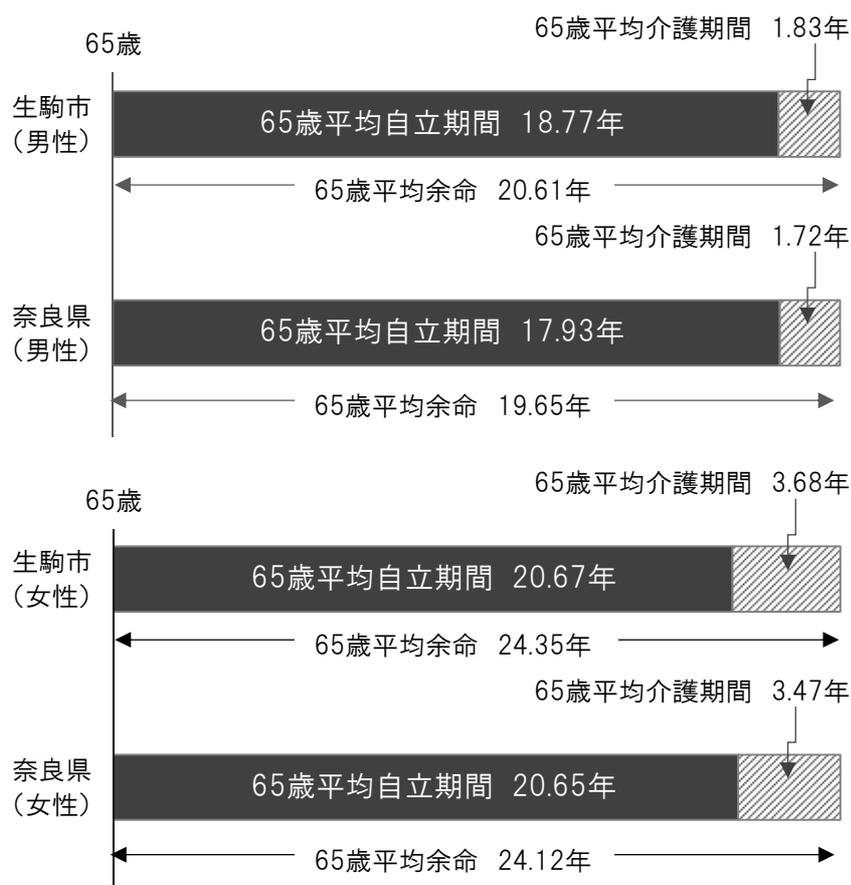
本市の健康寿命（2014年（平成26年））は、男性は奈良県や全国と比べると高くなっています。一方、女性は男性に比べて高いものの、奈良県とおおむね同じになっています。

図表4：健康寿命（65歳平均自立期間）の推移

単位：年

		2010年 (平成22年)	2011年 (平成23年)	2012年 (平成24年)	2013年 (平成25年)	2014年 (平成26年)
男性	生駒市	18.03	17.87	17.87	18.37	18.77
	奈良県	17.46	17.84	17.62	17.67	17.93
	全国	17.20	17.10	17.28	17.45	17.63
女性	生駒市	20.44	20.59	20.64	20.87	20.67
	奈良県	20.50	20.47	20.51	20.26	20.65
	全国	20.42	20.30	20.43	20.55	20.72

図表5：生駒市と奈良県の健康寿命（65歳平均自立期間）の比較（平成26年）



※奈良県資料「都道府県別、市町村別65歳時の健康寿命（平均自立期間）」より作成
 ※健康寿命：健康上の問題で日常生活が制限されることなく、生活できる期間

②死因別死亡者数

死因別死亡者数は、過去5年間で「悪性新生物」、「心疾患」、「肺炎」、「脳血管疾患」が上位を占めています。

図表6：死因別死亡者数の推移

		2011年 (平成23年)	2012年 (平成24年)	2013年 (平成25年)	2014年 (平成26年)	2015年 (平成27年)
1位	死因	悪性新生物	悪性新生物	悪性新生物	悪性新生物	悪性新生物
	死亡者数(人)	286	308	313	268	283
	死亡率(%)	(244.7)	(263.5)	(261.4)	(224.4)	(239.4)
2位	死因	心疾患	心疾患	心疾患	心疾患	心疾患
	死亡者数(人)	157	159	155	149	179
	死亡率(%)	(134.3)	(136.0)	(129.5)	(124.8)	(151.4)
3位	死因	肺炎	肺炎	肺炎	肺炎	肺炎
	死亡者数(人)	76	79	103	115	104
	死亡率(%)	(65.0)	(67.6)	(86.0)	(96.3)	(88.0)
4位	死因	脳血管疾患	脳血管疾患	脳血管疾患	脳血管疾患	脳血管疾患
	死亡者数(人)	71	64	55	53	41
	死亡率(%)	(60.7)	(54.8)	(45.9)	(44.4)	(34.7)
5位	死因	不慮の事故	不慮の事故	老衰	老衰	不慮の事故
	死亡者数(人)	32	30	41	33	29
	死亡率(%)	(27.4)	(25.7)	(34.2)	(27.6)	(24.5)

※郡山保健所資料

※死亡率は、人口10万人あたりで算出

③3歳児におけるう歯の状況

図表7：う歯の有病者数の推移

年度	来所者	むし歯		う歯の有病者数(人)	う歯の保有率(%)
		総計(本)	処置歯(本)		
2012年度 (平成24年度)	428	74	22	30	7.0
2013年度 (平成25年度)	364	69	5	28	7.7
2014年度 (平成26年度)	311	43	6	10	3.2
2015年度 (平成27年度)	269	25	1	10	3.7
2016年度 (平成28年度)	264	23	5	9	3.4

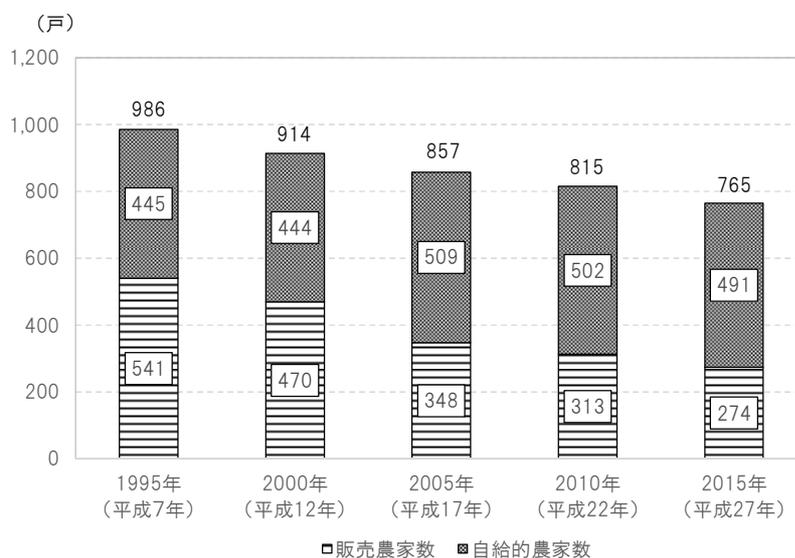
※市提供資料

(3)農業の状況

①農家数

総農家数、販売農家数、自給的農家数は、ともに減少傾向です。

図表8：総農数、販売農家数、自給的農家数の推移



※農林業センサスより作成

※販売農家：経営耕地面積が30アール以上又は調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円以上の農家。

※自給的農家：経営耕地面積が30アール未満かつ調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円未満の農家。

②地産地消の状況(学校給食での提供)

生駒市立学校給食センターで市内小中学校20校、約11,200食(平成29年5月現在)の学校給食を調理師、提供しています。

学校給食での生駒市産農産物(品目ごと)の使用状況(平成28年度)は、たまねぎが約6%、大根が約30%、黒大豆が100%です。平成29年度は、さつまいもを新たに使用しています。

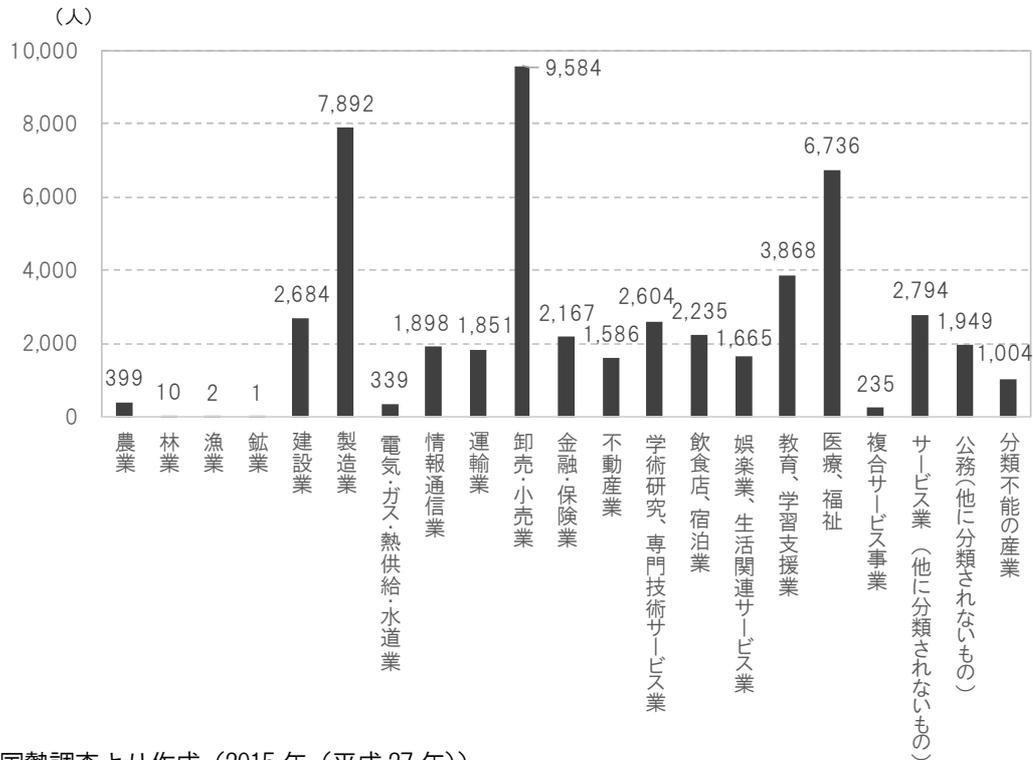
毎月19日の「食育の日」には、星型に切ったにんじんを各クラスの汁物の中に3つずつ入れるなど、子どもたちに給食を楽しんでもらう取り組みを実施しています。



(4)産業の状況

産業別就業者数は、卸売・小売業、製造業、医療、福祉に従事する人が多くなっています。

図表9：産業別就業者数



※国勢調査より作成（2015年（平成27年））

(5)食品ロスの状況

生駒市の家庭から出た燃えるごみのうち、約6%が手つかずの食品となっています（食品廃棄物に占める手つかず食品の割合は約14%）。その主な原因は、「鮮度の低下や腐敗」「消費期限、賞味期限切れ」などが考えられます。

【手つかず食品の例】



※ごみ組成調査（2016年（平成28年））結果より

(6)生駒市の食育に関する主な取り組み

①小学生メニューコンテスト

市内の子どもたちに食事を作ることや食べることの楽しさを実感してもらい、野菜摂取、栄養バランスのとれた食品の選び方や組み合わせ等を学んでもらうことを目的に、小学生メニューコンテストを毎年開催しています。

小学4～6年生を対象に野菜を使った朝食メニューを応募してもらい、応募作品の中から6作品が最優秀賞等を受賞しています。受賞作品は市役所食堂、市内飲食店等でメニュー化されるなど、市内で広がりを見せています。



②農業体験

市内の田畑を借りて、野菜やお米の収穫体験を行っています。生産者と交流しながら野菜を育てることの大変さや、収穫の喜びなど体験を通して得ると共に、食べることの大切さや、食事の楽しさを知る機会となっています。



③高齢者の孤食への対策

高齢者の体力・気力の向上を目指し、食事やレクリエーション等の提供を行う「ひまわりの集い」や会食サロン等を行っています。

写真挿入予定

④クッキング教室の開催

自分で食事を作ることを学び、食事の楽しさや大切さを考える機会として「学童料理教室」や、親と子が一緒に調理して食育を学ぶ「父と子の仲よクッキング」や「親子料理教室」、幼稚園児の親子対象の「魚料理体験」等、料理教室を通じて食に関する知識の普及を行っています。



⑤厚生労働省作成「食事をおいしく、バランスよく」の啓発ツールを利用した取り組み

市内スーパーで野菜の摂取量増加に向けた普及啓発として「野菜プラス1皿」のPOPを青果、惣菜売り場に設置しています。また、減塩の普及啓発として「食塩マイナス2g」のPOPを減塩商品売り場に設置しています。



⑥広報活動

広報紙「いこまち」において、6月の食育月間に食育特集を掲載し、広く食育推進を行いました。年間を通して、小学生メニューコンテストの受賞作品のレシピを紹介する「いこまっコレシピ」、生駒で食べられている料理を紹介する「いこまのうまいもん」の連載、生駒市ホームページでは、食育活動の報告を行っています。



⑦いこま食育ラウンドテーブル

「いこま食育ラウンドテーブル」設置要綱

(設置の目的)

第1条 生駒市食育推進計画に基づく食育の取組について、食育推進事業の効果を高めるために、市民や関係者が同じテーブルにつきアイデアを出し合い、取組を具体化する場として「いこま食育ラウンドテーブル」(以下「ラウンドテーブル」という。)を設置する。

(事業)

第2条 ラウンドテーブルは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 食育推進の総合的企画に関すること
- (2) 食育の普及啓発に関すること
- (3) 構成員間の情報共有に関すること
- (4) 前号に掲げるもののほか、目的達成に必要な事業

(組織)

第3条 ラウンドテーブルは15人以内の構成員をもって構成し、生産者・流通業者・小売店・農業協同組合・地域・職場としての企業・ボランティア団体・NPO等食に関係する者のうちから市長が構成員を任命する。

- 2 ラウンドテーブルに会長及び副会長を置き、構成員の互選によって定める。
- 3 会長は、ラウンドテーブルを代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第4条 会議は、必要に応じて会長が招集し、その議長となる。

(任期)

第5条 構成員の任期は、2年とする。ただし、構成員は、再任を妨げない。

- 2 前任者が欠けた場合における後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(庶務)

第6条 ラウンドテーブルの庶務は、健康課において処理する。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この要綱は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成24年5月18日から施行する。



地域の健康づくりに
貢献したことで、奈良
県より表彰されまし
た。



会議の様子

2 食育に関するアンケート調査結果

第2期計画の数値目標に設定したアンケート調査項目の平成24年9月（以下「平成24年度調査」）と平成29年10月（以下「平成29年度調査」）結果の比較、第3期の計画で設定した数値目標に関する指標を整理しました。

■ 調査概要

<調査の目的>

生駒市民の食習慣や食生活、食育への認知状況等を把握し、「生駒市食育推進計画」の見直しのための基礎資料とすることを目的に実施したものです。

<調査対象者、調査方法>

調査対象、調査方法は下記のとおりです。

対象者区分	対象者	調査方法	調査時期
乳幼児	市内に在住の就学前の子どもの保護者	郵送配布・ 郵送回収	平成29年 8月10日 ～ 9月6日
小学生	市内に在住の小学5年生の子ども		
中高校生	市内に在住の中学生・高校生		
成人(18歳以上)	市内に在住の18歳以上の市民		

<配布数、回収率>

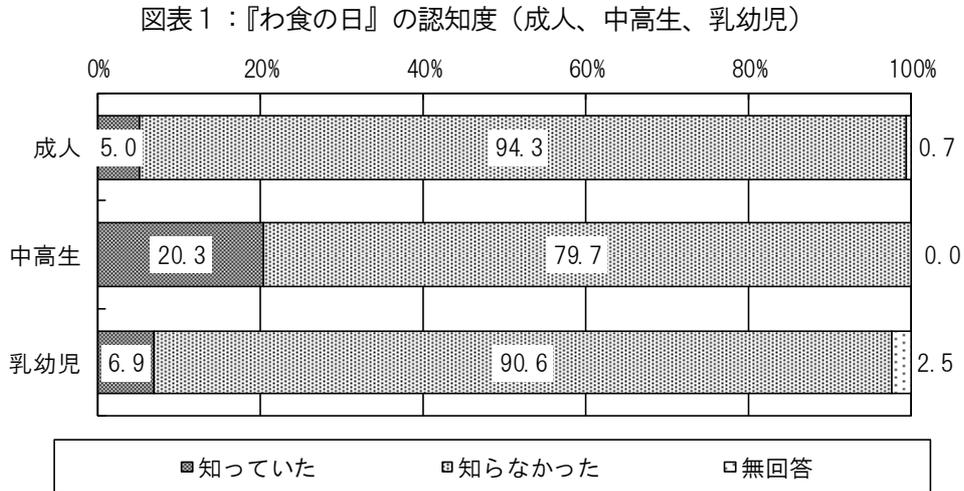
配布数、回収率は下記の通りです。

対象者区分	配布数		回収数 (b)	回収率 (b÷a)
	配布総数	宛名不明分を 除く(a)		
乳幼児	800	800	394	49.3%
小学生	400	400	195	48.8%
中高校生	800	799	276	34.5%
成人(18歳以上)	2,000	1,993	754	37.8%

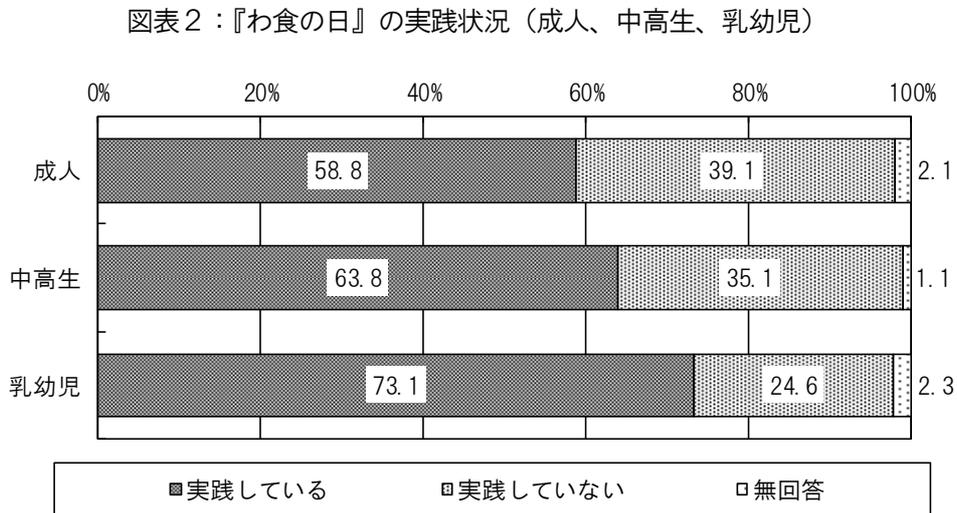
■ 調査結果概要

① 『わ食の日』の認知度、実践状況

- 『わ食の日』を知っている人は、中高生が20.3%と最も高くなっています。一方、成人は5.0%にとどまっています。



- 『わ食の日』を実践している人は、どの世代でも半数を超えています。なかでも、乳幼児は実践している人が最も多く73.1%となっています。



わ食の日

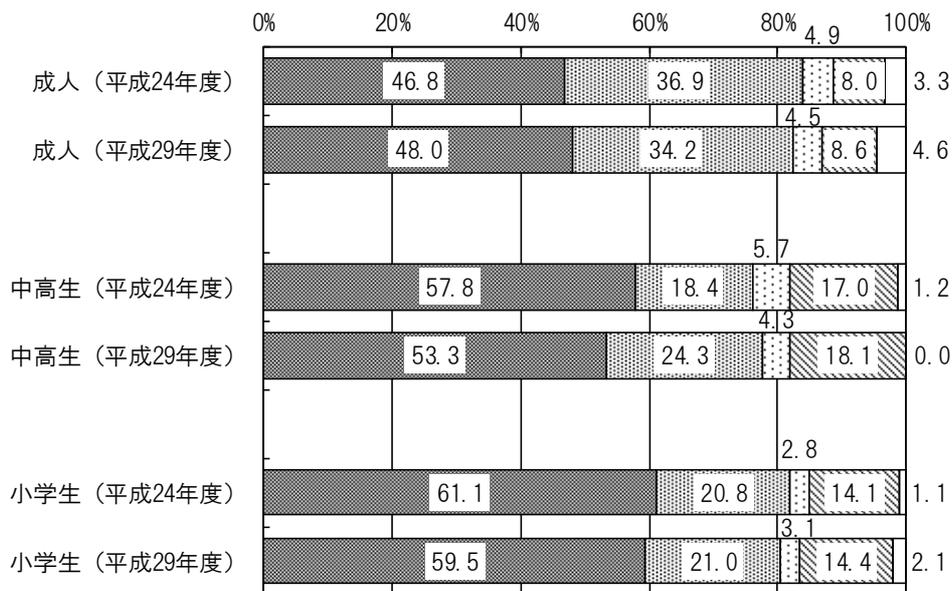
「わ食の日」は、家族や仲間と一緒に食事をして食の楽しさを知ってもらう日です。
 「わ食」とは、和やかな食事、輪になって楽しい食事、身体に○(まる)な食事、和食などのことを意味します。



② 食育に関心のある人の割合

- 食育への関心をみると、食育に関心のある人（「食生活には気をつけているので問題ない」「問題があり、改善しようと思う」の合計）はどの世代でも70%を超えています。
- 中高生については、食育に関心のない人（「問題があっても、改善しようと思わない」「食生活にはあまり関心がない」の合計）が20%を超えています。

図表3：食育に関心のある人の割合
（成人、中高生、小学生：平成24年度と平成29年度の比較）

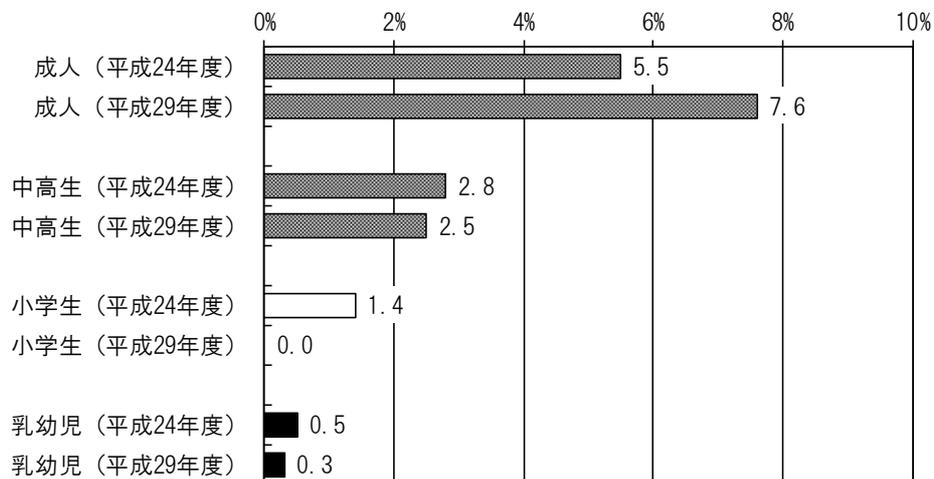


食生活には気をつけているので問題ない
 問題があり、改善しようと思う
 問題があっても、改善しようと思わない
 食生活にはあまり関心がない
 無回答

③ 朝食の欠食状況

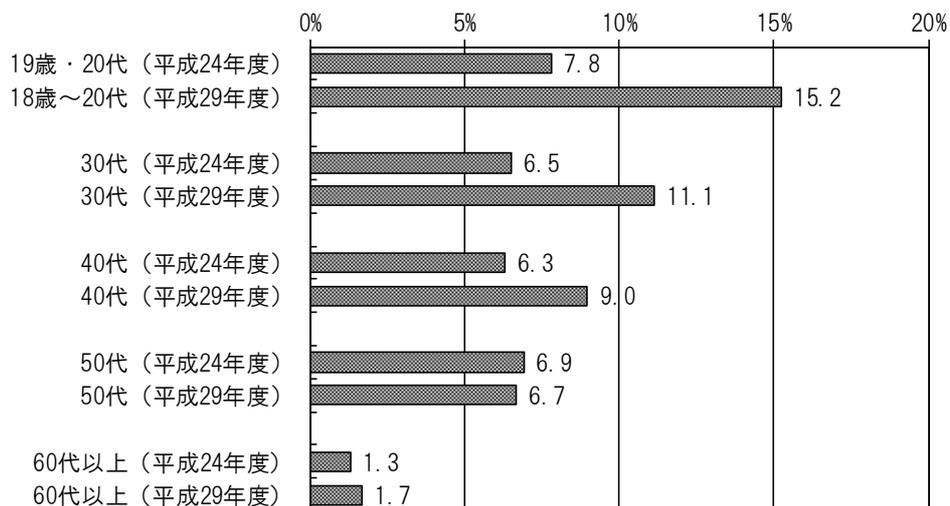
○ 朝食を「ほとんど食べていない」という人の割合は、成人で7.6%、中高生で2.5%、小学生で0.0%、乳幼児で0.3%となっています。成人において平成24年度調査と比べ増加しています。

図表4：朝食を欠食する人の割合（成人、中高生、小学生、乳幼児）



○ 成人を年代別にみると、年代が若いほど、朝食を食べていない人が多くっており、平成24年度調査に比べ増加しています。

図表5：成人年代別：朝食を欠食する人の割合

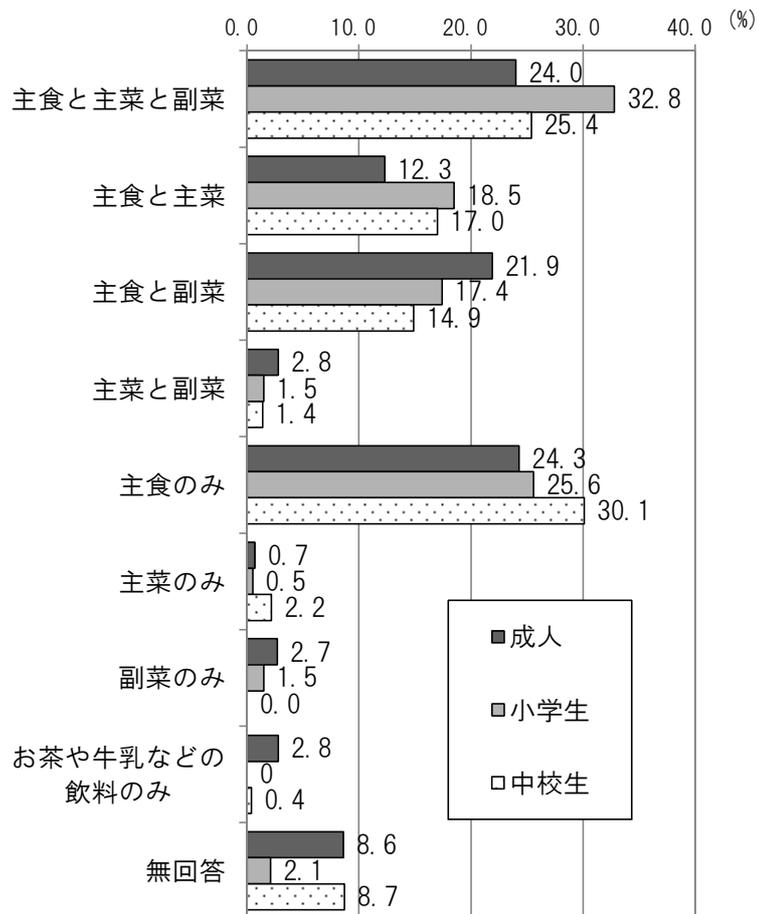


④朝食の内容

○ 朝食を摂っている人のその内容を見ると、成人と中高生では「主食のみ」が最も多く、次いで「主食と主菜・副菜」となっています。

小学生では「主食・主菜・副菜」が最も多く、次いで「主食のみ」となっています。

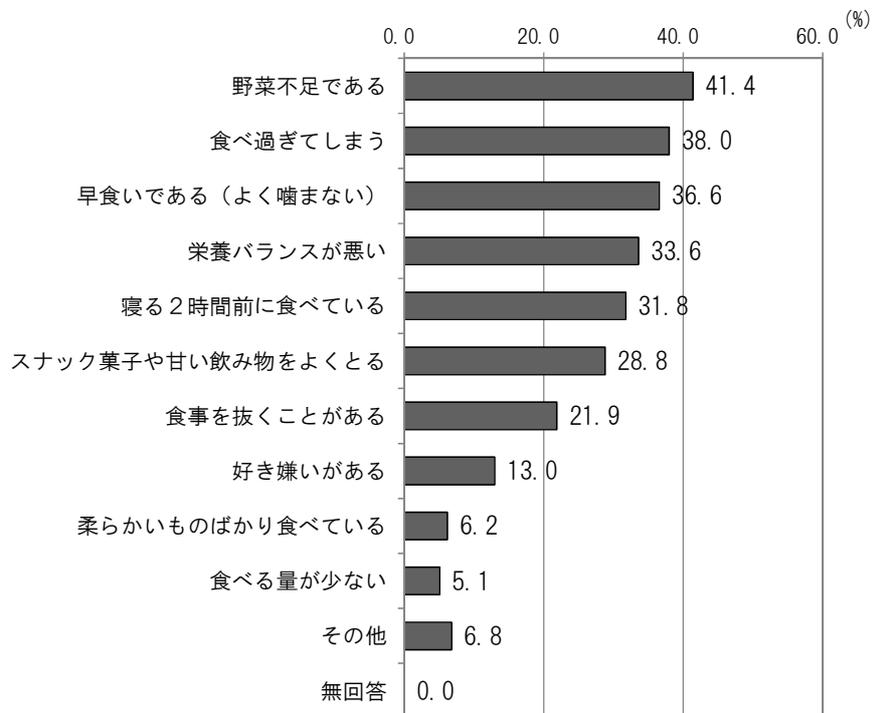
図表6：朝食の内容（成人、中高生、小学生）



⑤自分の食生活の問題点について

○ 「栄養バランスが悪い」と感じている成人の割合は、33.6%となっています。

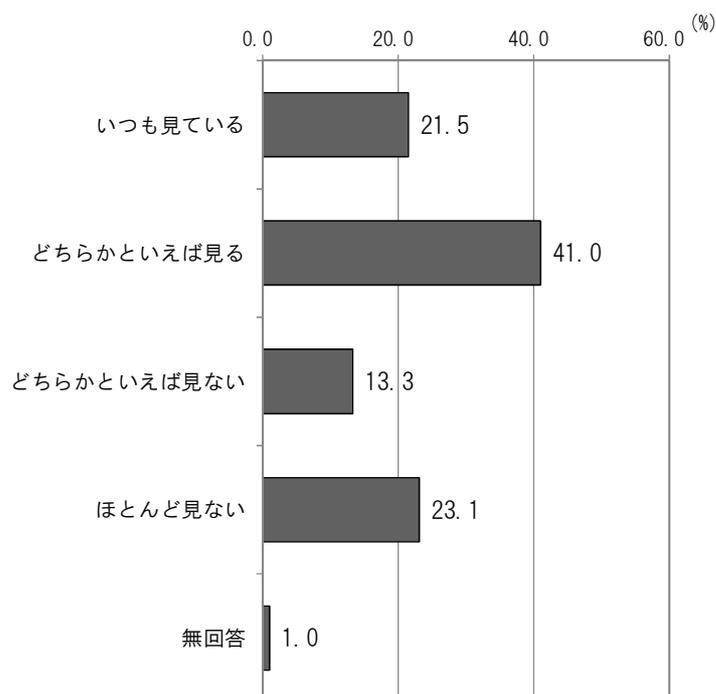
図表7：自分の食生活の問題点（成人）



⑥購入時に食品の消費期限やカロリー、原産地などを見る小学生の割合

○ 購入時に食品の消費期限やカロリー、原産地などを見る小学生の割合（「いつも見ている」と「どちらかといえば見る」の合計）は、62.5%となっています。

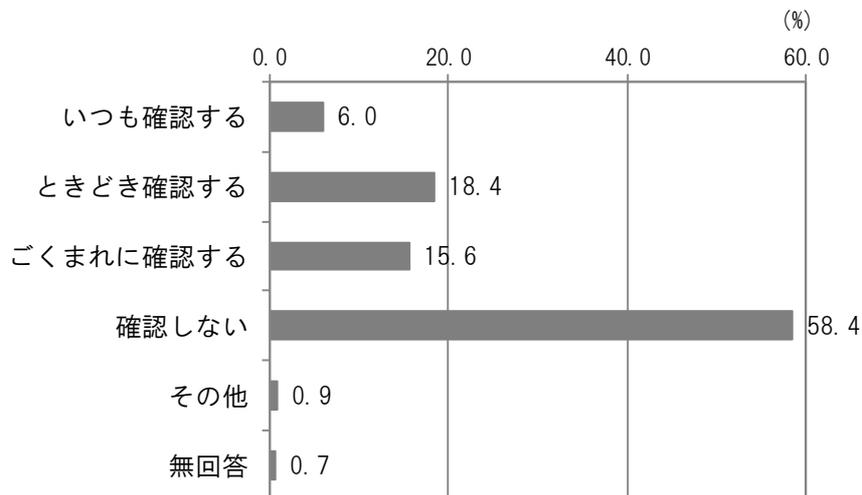
図表8：購入時に食品の消費期限やカロリー、原産地などを見る小学生の割合



⑦減塩を実践する人の割合

- 食品を購入するときや食べるときに、食塩、ナトリウムの表示を確認している人は「いつも確認する」と「ときどき確認する」を合わせると 24.4%となっています。一方で「確認しない」が 58.4% となっています。

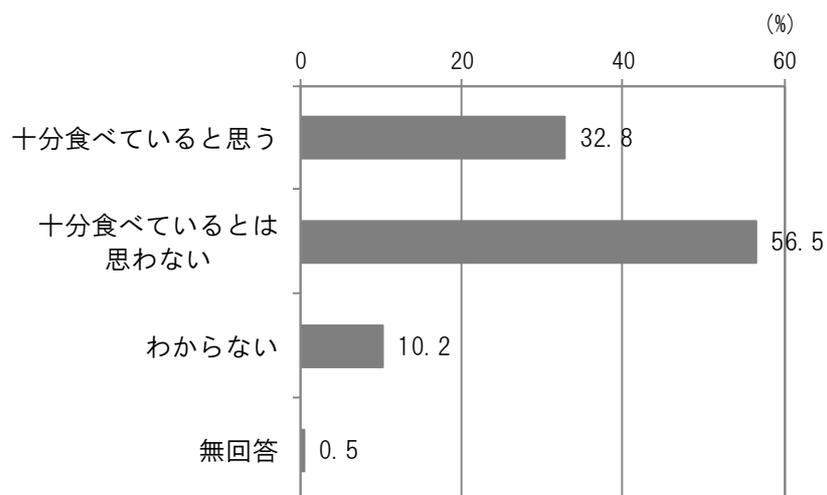
図表9：食塩、ナトリウムの表示を確認している人（成人）



⑧日頃の食事で野菜を十分食べていると思うか

- 「十分に食べているとは思わない」が最も多く 56.5%、次いで「十分に食べていると思う」が 32.8% となっています。

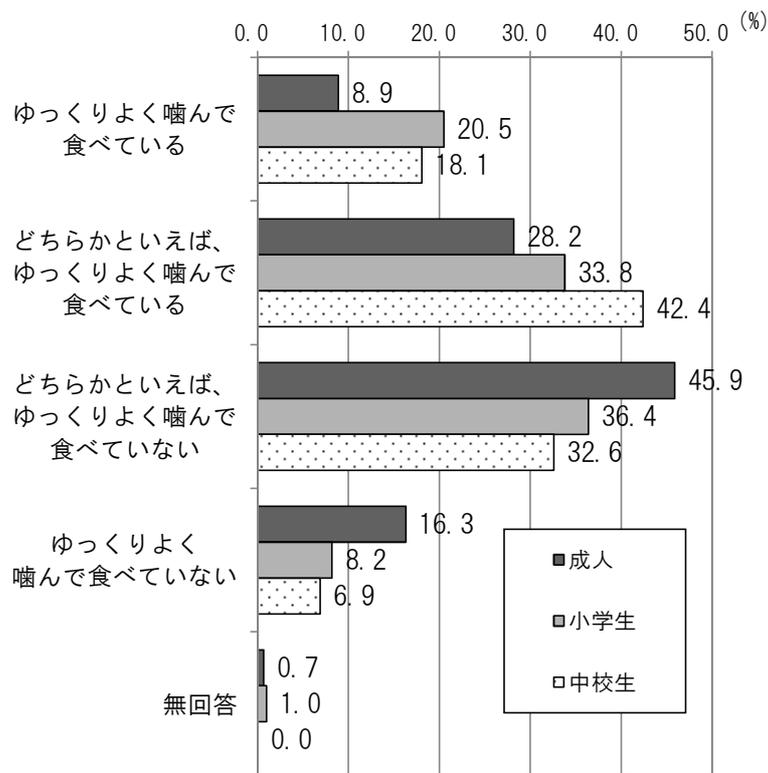
図表10：日頃の食事で野菜を十分食べていると思うか（成人）



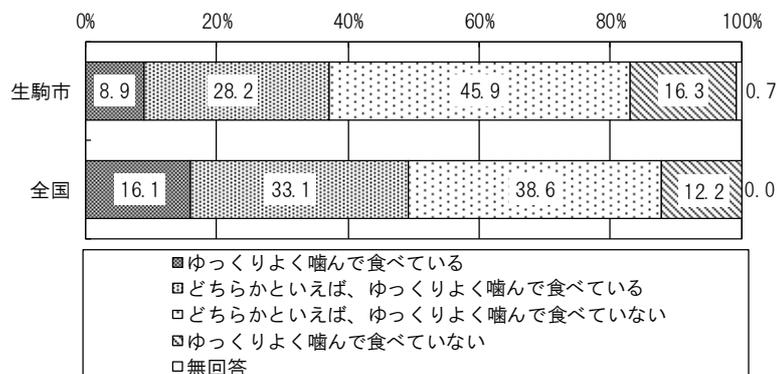
⑨ ゆっくりよく噛んで食べている人の割合

- 成人、小学生では「どちらかといえば、ゆっくりよく噛んで食べていない」が最も多く、次いで「どちらかといえば、ゆっくりよく噛んで食べている」となっています。
中高校生では、「どちらかといえば、ゆっくりよく噛んで食べている」が最も多く、次いで「どちらかといえば、ゆっくりよく噛んで食べていない」となっています。
- 全国と比較し、「ゆっくりよく噛んで食べる」（「ゆっくりよく噛んで食べている」と「どちらかといえば、ゆっくりよく噛んで食べている」の合計）は少なくなっています。

図表 11：ゆっくりよく噛んで食べている人の割合（成人、中高生、小学生）



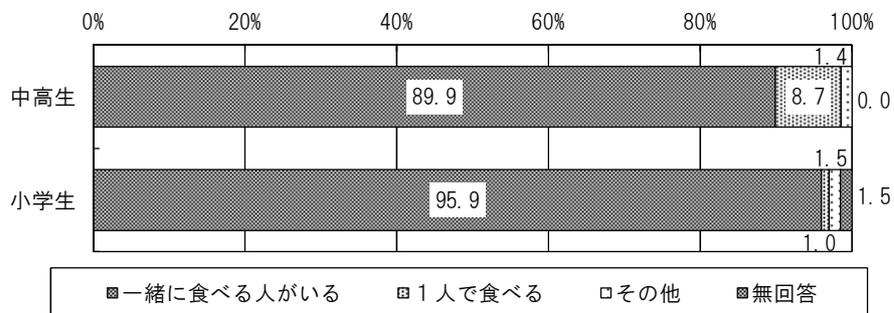
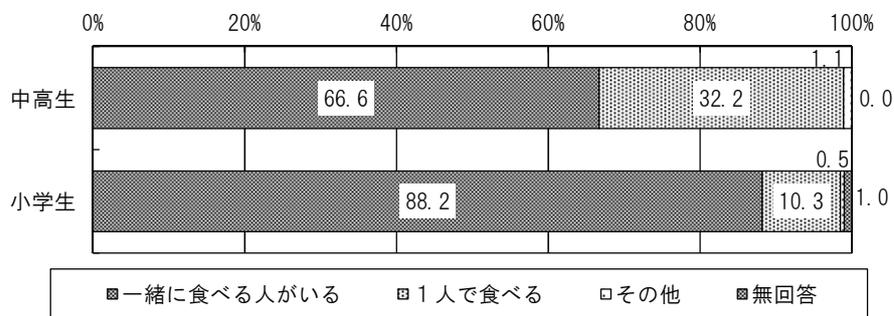
図表 12 ゆっくりとよく噛んで食べている人の割合 全国との比較



資料：食育に関する意識調査（平成 28 年 内閣府）

⑩朝食や夕食を一緒に食べる人がいる人の割合

○ 朝食や夕食を一緒に食べる人がいる人の割合は、小学生で 88.2%と最も高く、年齢が上がるほど割合は低くなっています。

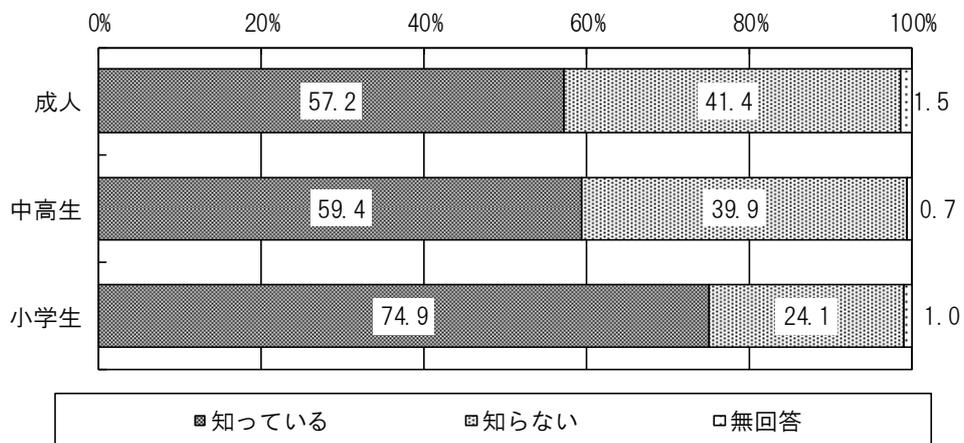


図表 13：朝食や夕食を一緒に食べる人がいる人の割合

⑪奈良県内の農産物を知っている人の割合

○ 奈良県内の農産物を知っている人の割合は、小学生で 74.9%と最も高く、年齢が上がるほど割合は低くなっています。

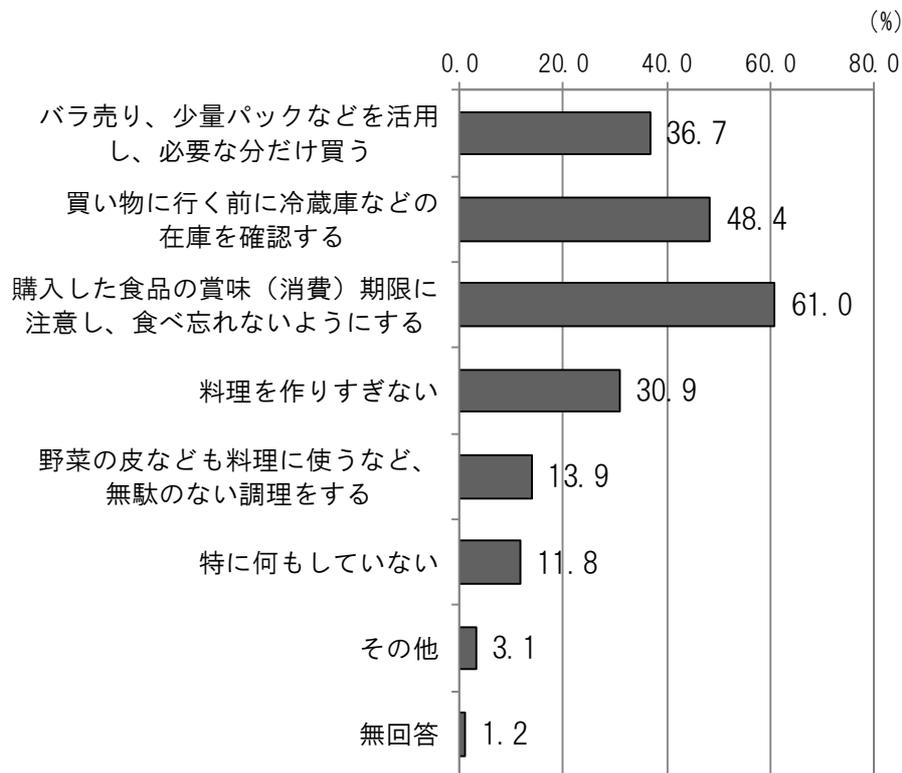
図表 14：奈良県内の農産物を知っている人の割合



⑫食品ロスの削減に向けた行動

- 「購入した食品の賞味（消費）期限に注意し、食べ忘れないようにする」が最も多く61.0%、次いで「買い物に行く前に冷蔵庫などの在庫を確認する」が48.4%、「バラ売り、少量パックなどを活用し、必要な分だけ買う」が36.7%となっています。
- 一方、「特に何もしていない」は11.8%となっています。

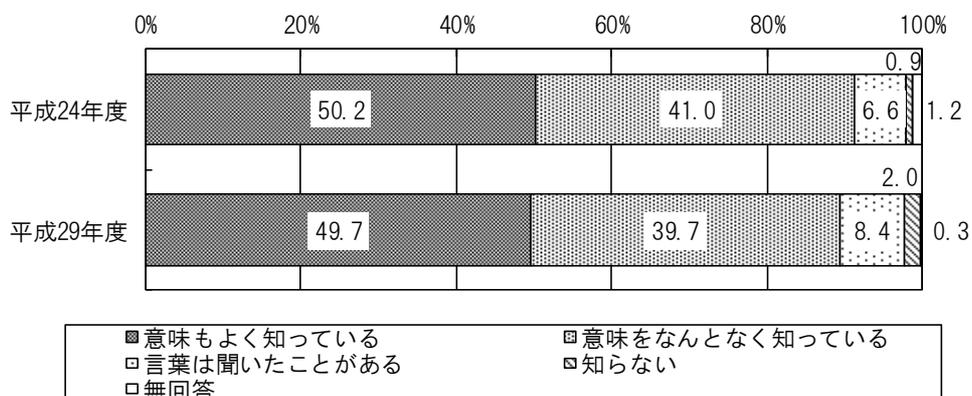
図表 15：食品ロスの削減に向けた行動（成人）



⑬メタボリックシンドロームの認知度

- メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の認知は、「意味もよく知っている」と「意味をなんとなく知っている」を合わせると89.4%となっています。

図表 16：メタボリックシンドロームの認知度（成人）

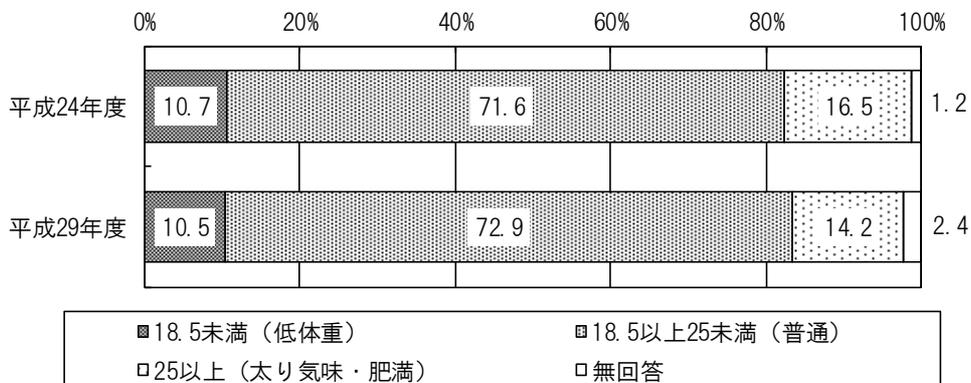


■ 意味もよく知っている ■ 意味をなんとなく知っている
 □ 言葉を聞いたことがある □ 知らない
 □ 無回答

⑭ BMI や日比式肥満度、カウブ指数

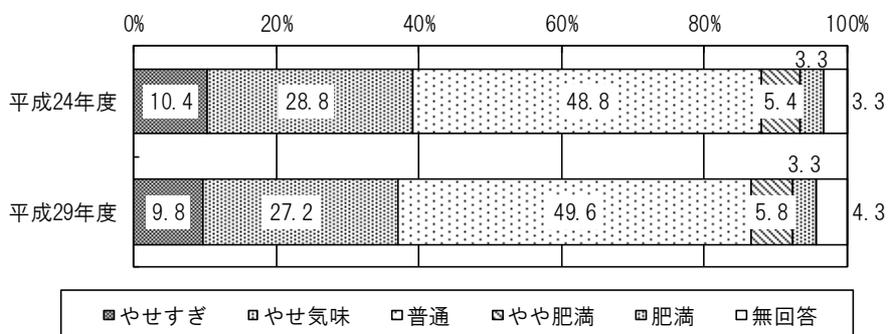
○ 成人では「太り気味・肥満」が14.2%となっています。平成24年度調査比べ「太り気味・肥満」が減少しています。

図表 17：BMI（成人）



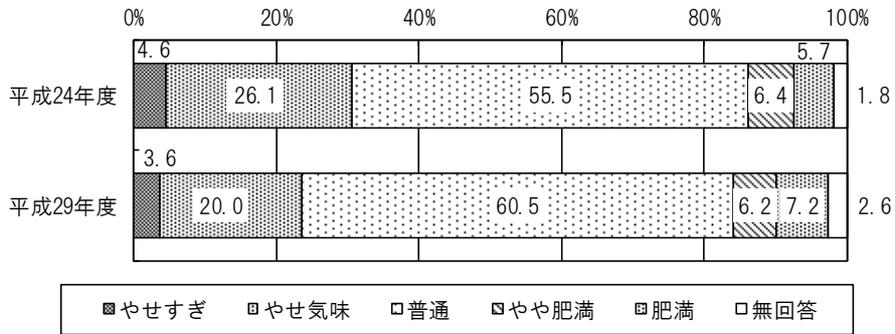
○ 中高生では「肥満」が3.3%となっています。一方、「やせすぎ」が9.8%、「やせ気味」が27.2%とあわせて30%を超えており、中高生における痩身嗜好がうかがえます。

図表 18：日比式の肥満度（中高生）



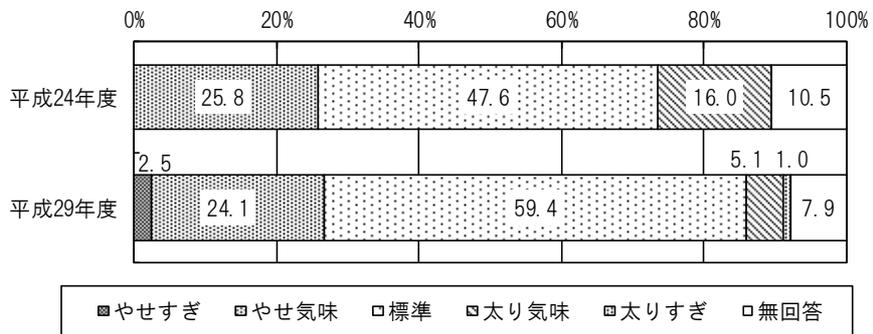
- 小学生では「肥満」が7.2%となっています。「やせすぎ」が3.6%、「やせ気味」が20.0%となっており、平成24年度調査に比べ瘦身傾向の児童は減少しています。

図表 19：日比式の肥満度（小学生）



- 乳幼児では「普通」に次いで多いのが「やせ気味」で24.1%となっています。一方、「太り気味」は平成24年度調査に比べ減少しています。

図表 20：カウプ指数（乳幼児）



3 第3期生駒市食育推進計画策定懇話会開催要綱

(趣旨)

第1条 本市における第3期生駒市食育推進計画の策定に当たり、外部の視点からの意見又は助言を求めため、第3期生駒市食育推進計画策定懇話会（以下「懇話会」という。）を開催することに関し必要な事項を定めるものとする。

(意見等を求める事項)

第2条 懇話会において意見又は助言を求める事項は、次のとおりとする。

- (1) 第3期生駒市食育推進計画の策定に関すること。
- (2) その他目的達成に必要な事項に関すること。

(参加者)

第3条 市長は、次に掲げる者のうちから、懇話会への参加を求めるものとする。

- (1) 学識経験のある者
- (2) 関係団体等の推薦する者
- (3) 郡山保健所職員
- (4) 公募市民
- (5) その他市長が必要と認める者

2 前項の場合において、市長は、原則として、同一の者に継続して懇話会への参加を求めものとする。

(運営)

第4条 懇話会の参加者は、その互選により懇話会を進行する座長を定めるものとする。

2 市長は、必要があると認めるときは、懇話会に関係者の出席を求め、その意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(開催期間)

第5条 懇話会の開催期間は、1年間を目途とする。

(庶務)

第6条 懇話会の庶務は、健康課において処理する。

(施行の細目)

第7条 この要綱に定めるもののほか、懇話会に関し必要な事項は、市長が定める。

附 則

この要綱は、平成29年6月30日から施行する。

4 第3期生駒市食育推進計画策定懇話会 参加者名簿

所属	氏名
甲南女子大学	天野 信子（座長）
（一社）生駒市医師会	松井 英人
生駒市歯科医師会	佐々木 昇
奈良県郡山保健所	吉川 萌
生駒市健康づくり推進員連絡協議会	藤尾 庸子
生駒市PTA協議会	岡島 保弘
生駒商工会議所	荻原 佐久雄
奈良県農業協同組合（生駒支店）	井上 良作
いこま育児ネット	清水 綾
生駒市校長会	山中 治郎
生駒市保育会	糸田 恵美子
生駒市環境基本計画推進会議	諸熊 えい子
市民	牧 香奈子
市民	溝口 雅代
市民	蒔崎 忠雄

5 第3期生駒市食育推進計画の策定経過

月日	内容
平成29年 8月10日～9月6日	●食育に関するアンケート調査の実施
平成29年 9月28日	●第1回策定懇話会 ・生駒市食育に関する現況報告 ・現在の取組、今後の取組アイデアに関する意見交換
平成29年 10月26日	●第2回策定懇話会 ・計画骨子案の検討 ・市民アンケート調査結果の報告
平成29年 11月30日	●第3回策定懇話会 ・計画素案の検討
平成29年 12月16日～1月15日	●パブリックコメントの実施
平成30年 3月31日	●第3期生駒市食育推進計画の策定